

住宅の地方性小委員会 通信

主査：田中 勝 事務局：山梨大学 教育人間科学部 住居学研究室

TEL&FAX 055-220-8226 E-MAIL: tanaka@yamanashi.ac.jp

ホームページ：<http://news-so.ajj.or.jp/keizai/chihosei/> (管理：福井大学菊地研究室)

2011年度 第2号 内容(目次) (2012/02/21発行)

2012年度 春の公開研究会(鹿児島)の開催について(第1報)

2012年度 建築学会大会(東海)研究協議会について(第1報)

2012年度活動計画 会員連絡先の変更案及び予算について(お願い)

■2012年度『春の公開研究会』の開催について

2012年春の地方性研究会・見学会は「鹿児島」で開催いたします。初めての鹿児島県開催です。企画にあたっては鹿児島大学副学長・友清貴和先生と研究室助教の小山雄資先生にたいへんお世話になりました。友清先生と小山先生に心よりお礼申し上げます。公開研究会の具体的な内容については小山先生から次のような濃密なプランをご提案いただきました。細部を詰めたうえで、詳細なスケジュールは4月上旬頃にあらためてご案内の予定です。鹿児島研究会に参加ご希望の方は、取り急ぎ日程の確保をお願いいたします。

【鹿児島研究会】

開催日：2012年5月18日(金)～20日(日)

【公開研究会(案)】

- (1) 「離島・過疎地域の居住政策」
 - ・鹿児島県の住宅事情史
 - ・離島・過疎地域における住生活基本計画・公営住宅長寿命化計画の策定報告(沖永良部島の和泊町、大隅半島錦江町での事例)
- (2) 「市街地における住商併用ビルの現状とその再生にむけた萌芽」

- ・鹿児島市中心部における居住動向の報告
- ・アーバンステーションカゴシマ(市・東大・鹿大の協同企画)の報告
- ・防災建築街区や公庫融資ビル等の見学など

【見学会(案)】

- (1) 過疎地域における集落維持の試み(鹿児島市錫山地区)
 - ・定住促進のための市営住宅
 - ・郵便局の多角経営化
 - ・デマンド交通
- (2) 鹿児島市天文館界隈の散策と建築ストックの再生事例
 - ・マルヤガーデンズ(旧三越の再生デパート)
 - ・名山町(戦災を受けた鹿児島では珍しい木造密集地区)
 - ・レトロフト(ビルの再生事例)
 - ・戦災復興区画整理でできた都市空間・広場
- (3) 武家屋敷群・麓集落の見学
 - ・伝建地区：知覧麓・入来麓
 - ・非伝建地区での活用・転用事例：蒲生麓
 - ・近代建築物との混在：加世田麓

※以上は現時点での企画案であり、時間の制約からすべてを実施するものではありません。内容については最終案でご確認ください。

■2012年度『建築学会大会 (東海)・研究協議会』の開催 について

来年度学会大会時の研究集会について、当小委員会からは次のような内容で提案したところ、昨年11月11日開催の建築社会システム委員会において認められました。また、その後の学術推進委員会でも承認されました。住宅の地方性小委員会としては2009年度の「世界的金融・経済危機と住宅政策の行方」に続く企画・運営となります。研究協議会の開催に向けて今後、関係者による事前打ち合わせ・調整、資料集の作成・編集等に取り組む必要がありますので、会員諸氏及び小委員会幹事各位におかれましてはご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、上述の建築社会システム本委員会において企画内容についていくつかのご意見をいただきました。これを受けて、以下の原案の内容・主旨を大きく変えない範囲で若干の修正（テーマや担当者など）を行うことを検討しています。そのためには3月6日開催予定の建築社会システム委員会に修正企画案を提出し、承認を得る必要があります。時間はありませんが、関係のみなさまにはこのあとご相談の連絡を差し上げますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【研究協議会開催日】大会2日目・午後（決定）
平成24年9月13日(木)

※以下は11/11開催の建築社会システム委員会に提出した企画案であり、今後の検討によりテーマや分担者等が変更になる場合があります。

【テーマ】初動期の住宅対策と仮設住宅のあり方
-被災地のコミュニティ形成と生活
再建に向けた住宅対策の課題-

【主旨】大震災後の住宅対策の初動期に焦点を当て、仮設住宅整備など様々な居住支援の現状・課題を踏まえ、今後の仮設住宅や復興住宅のあり方など被災地のコミュニティ形成と生活支援のための住宅対策の方向性を展望する。

【内容及び担当者】敬称略

司 会：碓田智子（大阪教育大学）
副司会：間野博（県立広島大学）
記 録：堀田祐三子（和歌山大学）

1.主旨説明 田中勝（山梨大学）

2.主題解説

(1)被災者向けの住宅対策の取り組みと課題
長谷川洋

（国土交通省国土技術政策総合研究所）

(2)福島型木造仮設住宅の試みと福島県復興計画
鈴木浩

（ハウジング&プランニングネットワーク）

(3)阪神淡路大震災の教訓を活かした仮設住宅の
コミュニティづくりと生活支援

石東直子（石東・都市環境研究室）

(4)多様な人々の視点からみた避難所・仮設住宅
から生活再建へ

中島明子（和洋女子大学）

(5)被災時を想定した行政の住宅対策の取り組み
調整中

3.討 論

4.まとめ

間野博（県立広島大学）

資料集編集委員会・主査：菊地吉信（福井大学）

■2012年度小委員会活動計画 (案)及び予算について

住宅の地方性小委員会の2012年度活動計画案は昨年11/11の本委員会において原案通り承認されました。春・秋年2回の公開研究会開催、地方性通信の発行、ワーキンググループ活動（地域居住政策、住まい・まちづくり学習）等、これまでの活動方針を継続していく内容となっています。

小委員会の予算額は年間60,000円です。ワーキンググループ活動の旅費等として必要な場合は、主査までご相談願います（2月末までに）。

■会員連絡先の変更について

年度末及び年度初めは異動の季節です。勤務先、住所、メールアドレスなど4月から連絡先が変更となる方や、変更の予定がある方は必ず、主査までご連絡願います。特に電子メールは現在、地方性小委員会事務局からの基本的な連絡手段となっていますので、変更がある場合にはご面倒でもその都度ご連絡をお願いいたします。なお個人情報 は事務局で管理し、小委員会活動以外の目的には使用いたしませんのでご安心ください。